

そすいさんぽ

CANAL WALK

大津ー山科ー鴨川コース
Otsu - Yamashina - Kamogawa Course





日本遺産
JAPAN HERITAGE



そすいさんぽ全コース概略図

「そすいさんぽ」には、琵琶湖疏水を巡る3コースがあります。各コースに、琵琶湖からの距離を示す「キロごとのサイン」が設置されています。サインには、電柱やフェンスへの掲示も含まれます。

- 流水分線コース
- 鴨川沿河コース
- 大津ー山科ー鴨川コース

コラム1

琵琶湖疏水記念館

明治時代にタイムスリップ!!

疏水(そすい)とは、人工的につくられた水路のことです。琵琶湖疏水は琵琶湖の水を京都に運んでいます。琵琶湖疏水記念館では、京都近代化の舞台裏を分かりやすくご紹介。湖上インクライン上を舟を載せた台車が行き来していた様子が分かるミニチュア模型のほか、湖上・岡崎エリアのジオラマやアーカイブ映像の視聴コーナーなどもあります。屋外テラスでは、噴水越しに疏水を望む素晴らしい景色も楽しめます。

開館時間：午前9時～午後5時 入館時間は午後4時30分まで ※ただし、トラム工場は午後4時まで。

入 館 料：無料

休 館 日：毎週月曜日 / 年末年始(12月29日～1月3日)

交 通：地下鉄東西線「蹴上」下車徒歩7分
市バス5系統「蹴上法橋寺町」下車徒歩4分

<https://biwakosui-mem.or.m.city.kyoto.jp>

コラム2

びわ湖疏水船

観光船で琵琶湖疏水を堪能

平成30年、約70年ぶりに復活した疏水を走る観光船、「びわ湖疏水船」は、春と秋の観光シーズンに水上から綺麗な桜と紅葉を見ることができるとあって大人気。

自然風景だけでなく、明治期の偉人が揮毫したトンネル出入口の「扁額」や赤レンガ造りの国登録有形文化財「旧御所水道ポンプ室」などを間近で見ることができます。とりわけ全長2,436mに及ぶ第1トンネルでは、ほとんどの作業を人力で行った先人たちの苦勞を肌で感じることができます。

専門ガイドによる案内を聞きながら、明治に想いを馳せる旅に出かけましょう!

運航時期：春(3月～6月) / 秋(10月～11月)

乗下船場：大津港・三井寺・山科・蹴上(4箇所)

運航ルート：下り(大津港→三井寺→山科→蹴上) / 上り(蹴上→三井寺→大津港)

定 員：下り12名 / 上り5名

運航料：時間により変動 ※乗船金予約制。

<https://biwakosui.kyoto.travel/>

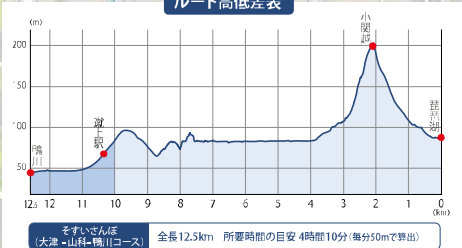
コラム3

岡崎さくら回廊 十石舟めぐり

満開の桜を両岸に見ながら優雅な舟遊び。南禅寺船溜の乗り場から夷川ダムまでの往復約25分間、小さな十石舟で岡崎の疏水をめぐる春の風物詩です。



ルート高低差表



そすいさんぽ(大津ー山科ー鴨川コース) 全長12.5km 所要時間の目安 4時間10分(毎分50mで算出)

- そすいさんぽルート
- そすいさんぽルート 鴨川沿河コース
- そすいさんぽルート 流水分線コース
- 琵琶湖疏水
- 琵琶湖疏水(船きよ・トンネル)
- 河川
- 日本遺産を構成する名所・史跡
- びわ湖疏水船乗下船場
- トイレ
- 観望スポット
- 紅葉スポット

● 八坂神社

コラム1

琵琶湖疏水記念館

明治時代にタイムスリップ!!

疏水(そすい)とは、人工的につくられた水路のことです。琵琶湖疏水は琵琶湖の水を京都に運んでいます。琵琶湖疏水記念館では、京都近代化の舞台裏を分かりやすくご紹介。湖上インクライン上を舟を載せた台車が行き来していた様子が分かるミニチュア模型のほか、湖上・岡崎エリアのジオラマやアーカイブ映像の視聴コーナーなどもあります。屋外テラスでは、噴水越しに疏水を望む素晴らしい景色も楽しめます。

開館時間：午前9時～午後5時 入館時間は午後4時30分まで ※ただし、トラム工場は午後4時まで。

入 館 料：無料

休 館 日：毎週月曜日 / 年末年始(12月29日～1月3日)

交 通：地下鉄東西線「蹴上」下車徒歩7分
市バス5系統「蹴上法橋寺町」下車徒歩4分

<https://biwakosui-mem.or.m.city.kyoto.jp>

コラム2

びわ湖疏水船

観光船で琵琶湖疏水を堪能

平成30年、約70年ぶりに復活した疏水を走る観光船、「びわ湖疏水船」は、春と秋の観光シーズンに水上から綺麗な桜と紅葉を見ることができるとあって大人気。

自然風景だけでなく、明治期の偉人が揮毫したトンネル出入口の「扁額」や赤レンガ造りの国登録有形文化財「旧御所水道ポンプ室」などを間近で見ることができます。とりわけ全長2,436mに及ぶ第1トンネルでは、ほとんどの作業を人力で行った先人たちの苦勞を肌で感じることができます。

専門ガイドによる案内を聞きながら、明治に想いを馳せる旅に出かけましょう!

運航時期：春(3月～6月) / 秋(10月～11月)

乗下船場：大津港・三井寺・山科・蹴上(4箇所)

運航ルート：下り(大津港→三井寺→山科→蹴上) / 上り(蹴上→三井寺→大津港)

定 員：下り12名 / 上り5名

運航料：時間により変動 ※乗船金予約制。

<https://biwakosui.kyoto.travel/>

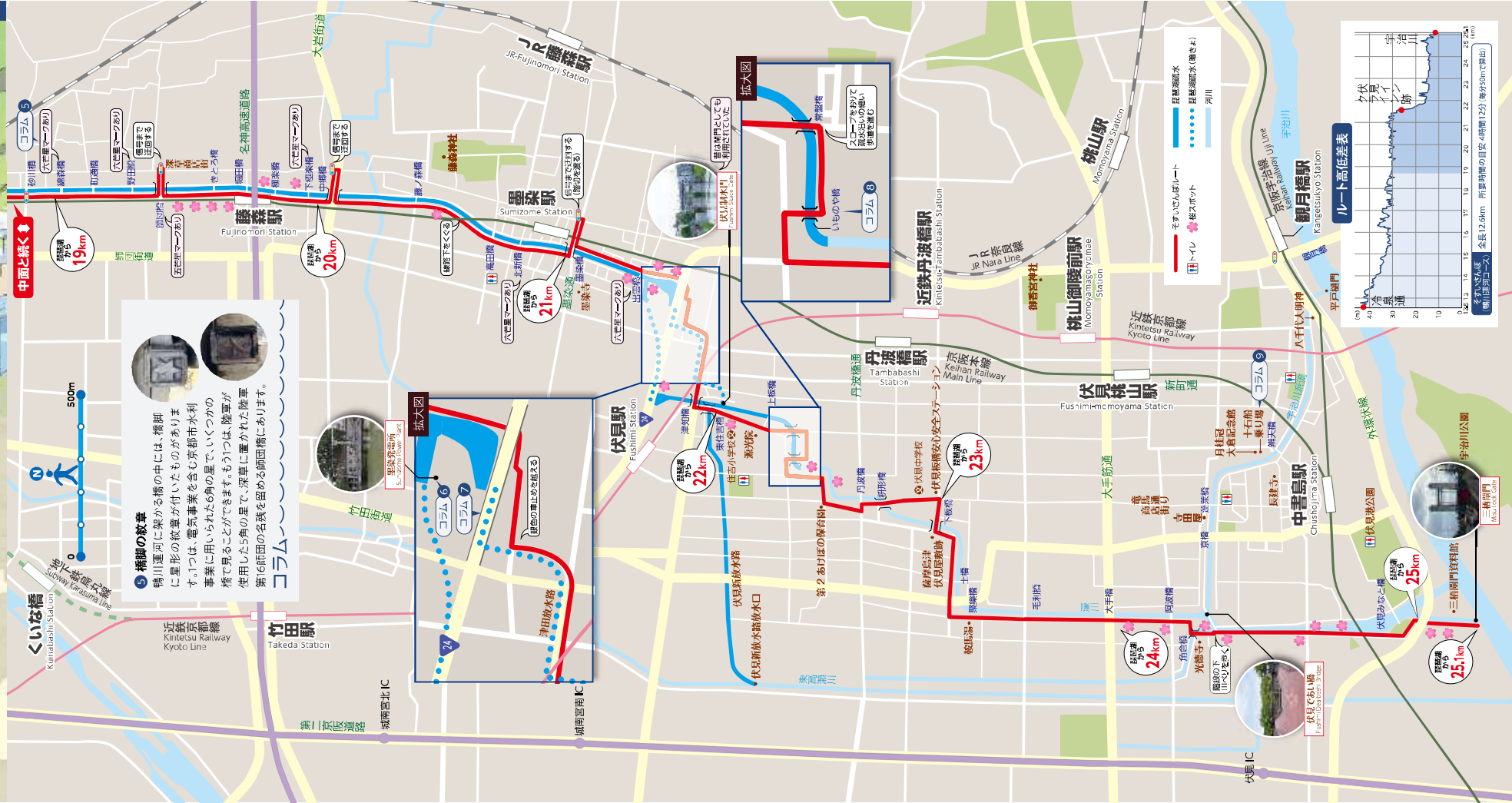
発行：琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会(京都市上下水道局)

発行年月：令和6(2024)年3月

琵琶湖疏水
LAKE BIWA CANAL



日本遺産
JAPAN HERITAGE



7 伏見インクライン跡

A black and white photograph showing a stone building with a balcony overlooking a body of water. The building has a rustic, textured appearance with visible stonework. A balcony with a simple railing extends from the building towards the water. The water is calm, and the sky is overcast. The overall mood is serene and somewhat somber.

⑨ 伏見十石舟
明治時代まで伏見～大阪を行き来していた舟を再現しています。月桂冠大倉記念館裏の乗船場を出発し三栢門で下船。三栢門資料館などを見学後、元の乗船場まで戻るコースで、酒蔵と柳並木の風情ある旅を楽しむことができます。

コラム

① せせらぎの道

鴨川運河は、三条通で暗きよ(地下水路)となり、堀小路橋から再びその流れが姿を現します。

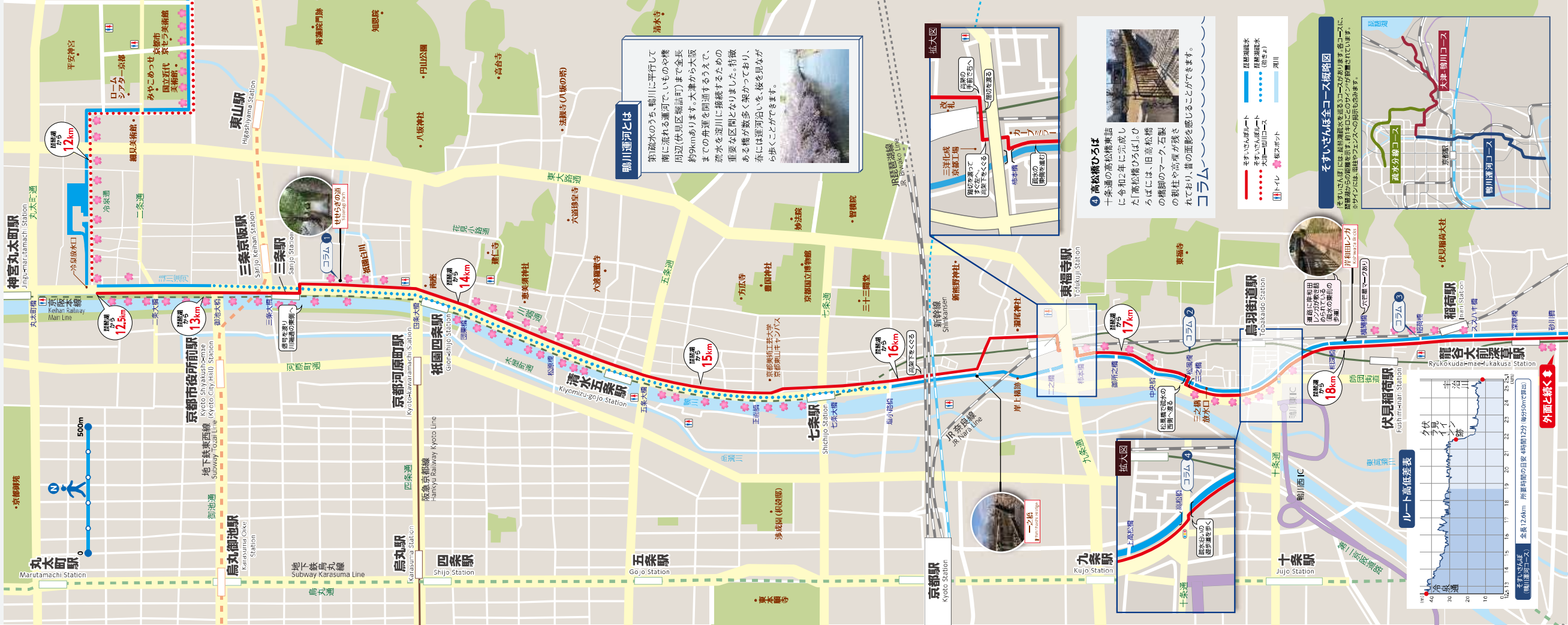
暗きよの工事は、京阪本線の地下化に伴い昭和63(1988)年に行われたもので、せせらぎの道はそれに伴う川端通の整備・拡張事業の一環として誕生しました。

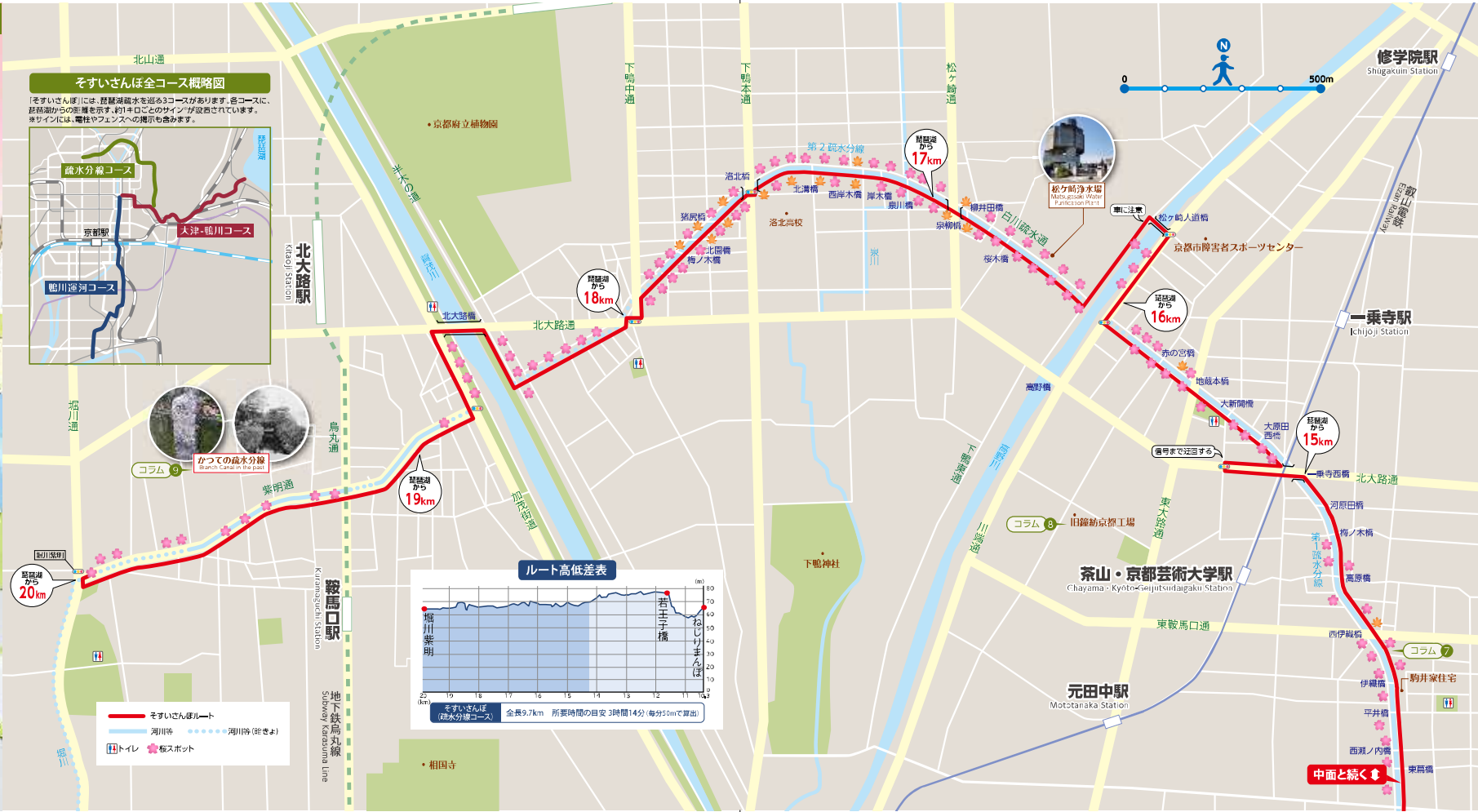
2 松風橋

鴨川運河が開通すると、沿線に工場が立ち並びます。その一つが、松風陶器合資会社（現在は盛材料メーカーの松風）です。元々は清水坂で陶磁器を作っていました。交通の不便や疏水を利用した運搬への期待から、この橋の左岸に移しました。

③ 市電稻荷停留所跡

かつて疏水の上に「駅」があったのを存存している。京が昭和40年代までは京都駅から伏見稲荷まで市電が往復し、疏水の稲荷橋上は終点の稲荷停留所でした。現在は公園となっており、現在にちなりと聞いたレールが面影はありますが、端にちなりと聞いたことを物語っています。





コラム

⑦ 等高線に沿って流れている琵琶湖疏水

疏水分線は、鴨川や桂川など京都市内を流れる川とは違い、南から北に向かって流れており、一見すると標高の高い方に逆上っているように見えます。疏水のルートは実は、等高線に沿うように設計されており、疏水の水ができるだけ広い範囲に流れるよう、水路の勾配が緻密に計算されているのです。



⑧ 旧鐘紡京都工場

明治41(1908)年に操業を開始した鐘紡京都工場は、原料の洗浄などに疏水の水を利用していました。現在の左京区高野東開町辺りが、その工場跡に当たります。

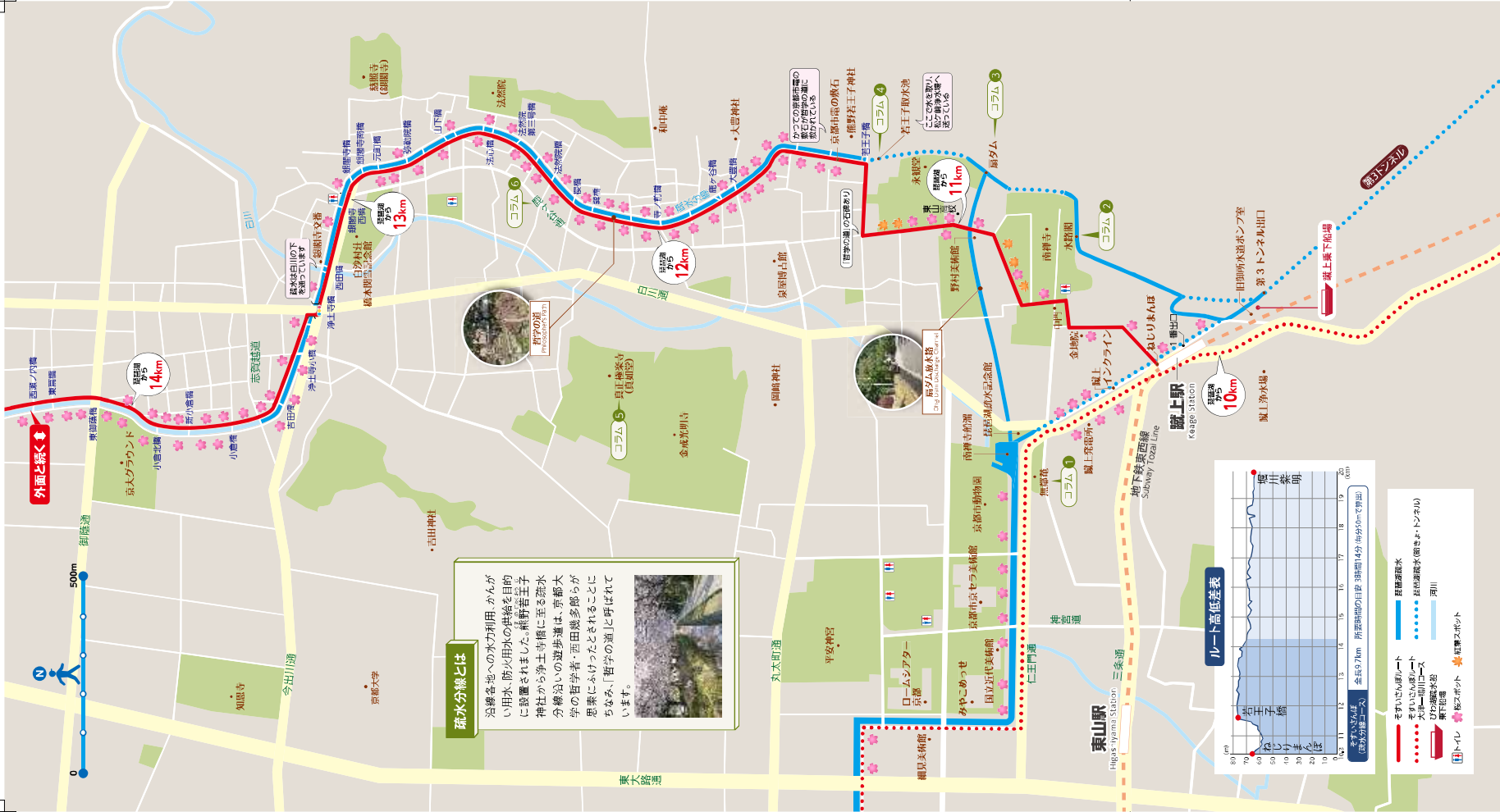


⑨ かつての疏水分線(紫明通)

琵琶湖疏水が完成した頃、疏水分線は小川頭(現在の北区紫野宮東町)までの約8.4kmでした。戦後、賀茂川以西の水路は廃止になり、紫明通となっています。現在は平成の堀川水辺環境整備事業により、第2疏水分線から引いた水は賀茂川の下を通り、紫明通の中央分離帯を流れています。紫明通の北側には、「疏」と刻まれた境界杭がいくつも残っています。



発行：琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会（京都市上下水道局）
発行年月：令和5（2023）年7月



地

天

コラム

● 南禅寺界隈別荘群
南禅寺の後面丘陵に、近代貴族達の作庭家七代目小川治兵衛(稀治)の活動もあり、湖水の水を利用した近代庭園群が形成されました。山脈を有する別荘である無鄰菴や平安神宮の神苑などがあります。



南禅寺界隈別荘群

● 水庭園
名刹・南禅寺の境内にかかるアーチ型の水築橋で、明治21(1898)年に完成しました。築上から若王子へ水を通すに当たり、田邊朔郎が地形や景観を考慮して設計したものです。橋上からは橋水の流れる姿を鑑みることが出来ます(国史院)。



水庭園

● 扇ダム
第5トンネルと第6トンネルの間にある「扇ダム」上主。ここから南禅寺界隈別荘の庭園群に引込まれ、防火用として水利用の申請を受けています。
※一般の方は立ち入りできません。



扇ダム

● 旧若王子プール
琵琶湖疏水のユニークな活川方法としてプールがありました。昭和40年代までは、市内小学校にプールはなく、水泳の授業は、豊富な水量がある湖水を活用した若王子プール、南禅寺プール、東川松瀬などで行われていました。



● 真如堂の石灯籠
真如堂の元三丈の石灯籠の間に、工学博士田端朔郎が設計した石灯籠が並んでいます。湖水のわがけで水不足に困らなくなったお礼として、白川村(当時の村長が奉納しました)。



● 幻の工業都市計画
北国自由地事は、湖水の水で水車を回して工業機械の動力に利用するため、麓分谷・智恵の周辺に工業地帯の整備を考えました。しかし、整備工事は多額の経費が掛かり、また水力発電所の建設計画が持ち上がったため、水車による工業都市計画は実現しませんでした。



琵琶湖疏水橋梁インクライン沿道至輪川(写真：明治20年頃、田邊家資料)の前身「花園」の土地にまで工業地帯と記されている。